

1 胡麻とパラグアイ

パラグアイの小規模農家にとって、手作業でできるゴマ栽培は生活の支えとなり、また、日本の食用ゴマを支えてきました。



しかし近年、連作障害の影響による生産量の減少や、日本の残留農薬基準の厳しさなどから輸出量が減り、多くの農家の生活が困窮するという課題を抱えています。



② 企業としての取組み

わだまんサイエンスはJICAと連携し、講習会等を通じたパラグアイにおけるゴマ加工技術の移転と高付加価値化、



国立アスンシオン大学と協力した市場調査と現地ニーズに合わせた商品開発、そして、ゴマ食文化の普及の可能性を実証しました。



3 取組みの結果・・・

パラグアイではゴマを食べる習慣がほとんどなかったところ、「食生活を豊かにするゴマ料理・ゴマ商品」という意識が生まれました。



また、パラグアイ人の嗜好に合うゴマ加工試作品を7つ開発することで、国立アスンシオン大学にその開発手法を移転しました。



4 今後の展開

かつては原料としての生ゴマ輸出が主だったパラグアイのゴマ産業。



これからも、わだまんサイエンスは付加価値の高い新商品開発などを通して、パラグアイや近隣国の新たなゴマ市場を開拓し、ゴマ農家の生計向上と、世界の人々の健康に貢献していきます。

